

### 第3回障害者スポーツ振興ワーキンググループにおける主なご意見 (障害者スポーツセンターの在り方について)

#### <総論>

- 障害者スポーツセンターにおける、地域の障害者スポーツ振興の拠点・関係者をつなぐハブとしての機能は、都市部と地方都市で体制の作り方が異なるものだと思う。そういう意味では、各地の障害者スポーツセンターの情報共有をする連絡協議会のようなものがあるといい。
- 障害のある人が1つの場所に集まってスポーツをするというのは難しい。センターだけに集中させるのではなく、広く地域で拠点が必要。総合型など地域の資源を活用するためには、義務というだけでは限界があって、センターを中心に一般の施設のバリアフリー化への支援など、一般の施設やクラブが最初に障害のある人を受け入れる時の支援があるといい。
- 全体を通じて、学校体育施設などにも触れ学校との連携を書いた方がいいのではないかと。教育委員会との連携が大事である。

#### <ビジョン・目標>

- 学校部活動などで障害のある人とない人が一緒にスポーツをやっている。そういう環境を作っていけることが大事だと思う。
- いつでも、どこでも、に加え、「誰もが」という単語を足していいと思う。それと「肝要」というのではなく「重要」でいいのでは。

#### <障害者スポーツセンターの役割>

- 地方都市における展開を考えると、長野県ではサテライトの設立、高知県では総合型を活用、鳥取県では一元的ではなく各地のスポーツ施設をつないでいくタイプであり、多様な形があるものと理解。利用に当たっては、受益者負担も含めて、検討していくべき。
- 単にセンターを施設として設置するだけではなく、ネットワークを繋いでいるところは、今後のセンターの在り方として参考になるのではないかと。
- 通過型、社会参加というのは、施設の在り方を考える上でキーワード。センターでいろいろなノウハウなどを学んで社会参加していくというところは、異論がない。

- 長野県サンアップルの人材育成では、地域で地元精通した支援リーダーを育てていくアプローチと、ハブ施設であるサンアップルで経験を積んだ方がサンスポートに出て地域で活躍するアプローチ、この両輪がうまく回りながら、広域において、ハブ・サテライトが機能していると思うので、ハブ・サテライトという機能の役割分担、ネットワークのところは、今後のスポーツセンターの在り方にすごく参考になると思う。
- 長野ではセンターとサテライトを使って人材育成をしているが、もう少し人の少ないところでは、都道府県の障害者スポーツ指導者協議会も含めて研修制度を作っていく必要があると思う。
- センターの進める関係者との連携に関して、医療従事者としてそこに入っていき重要性を感じた。
- スキーの場合、日本プロスキー協会が、スキーをやりたい障害のある人がスキーをすることができるように活動する。こうした組織も障害者スポーツの振興に寄与することを示していくべき。

### ＜障害者スポーツセンターにあるべき機能＞

- 障害者スポーツセンターでないとスポーツをすることが困難な人もいるので、そうした人への配慮は残してほしい。
- あるべき機能として、各個人への指導の部分を明確にすべきではないか。
- まだまだ縦割りである部分も感じられるので、コーディネーターが横軸を通すような取組が期待される。
- 障害者スポーツセンターとしての役割を果たすためには、人材育成と地域の関係者との連携が重要だと感じた。医療関係者との連携をしているが、関係者との連携をさらに広げていきたい。
- 公共スポーツ施設は場所を貸すという意識が強い。学校部活動、クラブなど、ある程度組織がしっかりしているから、場所を貸しさえすれば、安全にスポーツができるという状況。これから障害のある人を受け入れていくなら、それだけでは不十分。ただ、全ての公共スポーツセンターに障害者スポーツ指導員を置けるかという課題があり、障害者スポーツセンター等からの派遣という形もあるのではないかと思った。

- 障害者スポーツセンターの情報発信が重要。学校の社会科見学で行くとか、中途障害の方に来てもらうとか、様々な情報発信が必要ではないか。また、センターと地域それぞれで障害のある人を指導できる人材を育成し、両輪で進めていくことが必要。

#### <機能の整備にあたり留意すべき事項>

- 指定管理制度や受益者負担の問題は、丁寧な議論が必要。
- 障害のある人が参加する時の妥当な料金を示した方がいいのではないかと感じた。障害者割引が果たして障害のある人の権利かという点には少し疑問がある。
- 大阪メトロだと、1人で移動できる人は障害者割引が使えない。障害者割引が必要になる方は、お手伝いが必要な人、全てのサービスが受けられない人、なのではと思った。もちろん所得の話もあるが、一律に割引・無料がいいのか、という点は検討していいと思う。
- 受益者負担について、障害のある人は無料であることが必然ということでもなく、サステナブルなものになるように、ということを書いていくべき。

#### <必要な人材>

- 指導員の在り方については、サンアップルの支援リーダーとか、外部と連携して推進するための職員、中で指導する人、様々な人材を考えていく必要がある。
- 人材の問題については、どういう形で障害者スポーツを支えていく人材が、うまく登用され、その方自身のキャリアになっていくのか、制度をつくらないと持続可能なものにならないのではないかと。職員の定着のためにも、待遇面も含めて、しっかりとやっていくことが非常に重要。
- 人材育成、待遇に関し、どういう人材を求められるかは、非常に重要な視点。特にコーディネーターは、専門的な知識がとても必要。障害者スポーツに対する専門知識だけでなく、スポーツ界における専門知識も必要で、コーディネーターを育てていく仕組みをしっかりとしないと、地域における障害者スポーツが持続可能なものにはならないと思う。
- センターの役割として、障害のある人がスポーツを楽しむ、障害のある人と地域をつなぐということが求められている。それらを通じて、地域を育てていくことになる。どういう人材をどう育てていくか、カリキュラム等を具体的に考えていく必要がある。